

は「要素開発からコンパクト ERL 製作開始！」の意気込みで進めている。

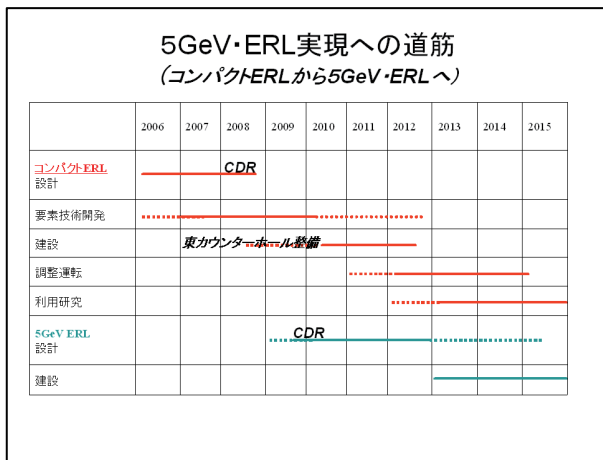
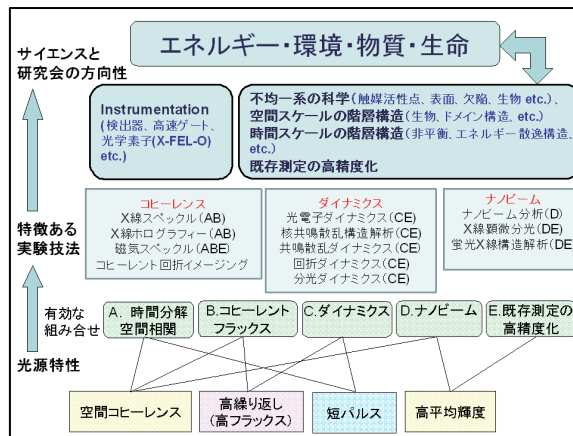


図3 ERL 計画のスケジュール案

ERL のサイエンスの方向性に関しては、2008 年 9 月に開催された ERL 推進委員会の議論[3]を踏まえて、ERL のサイエンス戦略会議を並河一道教授(東京学芸大学)にまとめ役を御願ひし議論いただいた。その答申は、ERL のサイエンスの方向性は「不均一系の科学」、「空間スケールの階層構造」、「時間スケールの階層構造」が大きな括りであり、これらのテーマと XFEL-O を含めた「Instrumentation」のテーマで研究会の企画を進めるべきと言う内容である(図4 参照)。5月から6月にかけて上記の研究会を行うとともに既に2~3週の間隔で話題提供の形で ERL サイエンス検討会[4]を開催している。



XAFS 関係のサイエンスの展望に関して、本研究会でぜひ活発かつ忌憚の無いコメントをいただければ幸いです。

References (参考文献)

[1] K.-J. Kim, Y. Shvyd'ko, S. Reiche, PRL. **100**, 244802 (2008).

図4 ERL サイエンス戦略会議答申の概要 JAEA-Research 2008-032 (2008) [in Japanese].

[3]<http://pfwww.kek.jp/ERLoffice/committee.html>

[4]http://pfwww.kek.jp/ERLoffice/erl_scienc.e.html